

TSUDOI

スタンダードプラン 週次レポート

TSUDOIはブロックチェーンと仮想通貨に特化した情報配信サービスです。

本レポートコンテンツ

◆TOP銘柄分析ガイド

今週の急上昇銘柄分析、上昇理由と将来予測

◆狙い目：中堅銘柄発掘ガイド

世界トレンド銘柄の分析

◆大穴：新規銘柄発掘ガイド

CMC新規リスト銘柄分析

◆調査銘柄 早見表

TOP	 Ethereum	 Solana	 Ondo
中堅	 Virtuals Protocol	 ether.fi	 Frax (prev. FXS)
新規	 Space and Time		

このレポートはTSUDOIの有料サービス、スタンダードプランの加入者専用の情報です。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。

レポートの読み方については、一覧に含まれる [「必見！成功へ導く3つの仮想通貨投資術」](#) をご覧ください。



TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。



週次トークン価格高騰 TOP銘柄

トップ銘柄 分析ガイド 5/16

本分析ガイドは、Coinmarketcap（CMC）サイトにて、7日間を通してトークン価格が最も高騰もしくは下落したTOP銘柄を調査し情報を提供するものですが、今週は、中堅銘柄同様、検索トレンドを中心に話題となっている銘柄を週次でまとめて分析となっています。この分析から、市場で何が起こったのか、どの銘柄が注目されているのかを把握することができます。

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリ	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	上昇率 7days
#2	 Ethereum	Layer1	¥44,969,877,478,784	¥370,923.50	—	▲32.89%
#6	 Solana	Layer1	¥13,031,277,708,005	¥24,969.65	3.45倍 (ETH比)	▲13.07%
#35	 Ondo	RWA	¥446,482,413,991	¥141.33	—	▲5.23%

TOP銘柄チャート

上記画像は、Coinmarketcap（CMC）で記載されている7日間の価格推移を表示したチャートとなります。基軸通貨であるBTC価格は、直近7日間で、▲5.44%となっております。





参照元：Coinmarketcap

銘柄の価格高騰要因(考察)



とは

TSUDOIRリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

Ethereum：ETH：



本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：Ethereum Foundation再始動：3本柱でETH底上げへ

Foundationは、3,260万ドル助成金をQ1に配布しZK・教育・L2開発を底上げ、5/7 Pectra実装を主導し手数料削減とバリデータ拡大を実現、5/14 機関投資家など大口ホルダーへ向けた「1兆ドルセキュリティ」構想に資金を投下することが発表され、機関投資家を含む大口投資家への注目が高まる。今後は年末 Fusaka で処理能力を倍増予定となり、これが進めば ETH は L2への資本流出を抑え、オンチェーン活動と手数料収入のV字回復が見込まれる。

Solana : SOL

本銘柄は、直近3カ月で3度目の選出となります。



注目ポイント：Solanaに吹く「ICM×ミーム」新潮流

Solanaは1週間で取引量4割増し、手数料3割増と、高速・低コスト基盤の実需が加速中となる。その上に登場したICM (Internet Capital Markets) というテーマは、アイデアを Believe Appで即トークン化し世界中から資金を集めるというミーム以来の新しい波の可能性を感じさせるサービスの登場。ミーム & AIミームの盛り上がりがあった1月のような熱気を帯びれば、大量トラフィックをさばけるSolanaでは、玉石混交期に手数料急増でSOLが買われる可能性が期待される。

Ondo Finance : ONDO

本銘柄は、直近3カ月で3度目の選出となります。



注目ポイント：JPモルガンの「国債トークン」採用が示す意味

5/14 米銀最大手JPモルガンは、Ondo Financeが運営する公開ブロックチェーンで米国債を“デジタル証券”化し、自行の口座から送金を行い同時に受渡しまで完結させた。従来は社内プライベートブロックチェーンを試していたが、今回は誰でも検証できる公開ネットを敢えて採用した点が注目される。これにより銀行レベルの安全基準がパブリック環境でも通用することが証明され、他の金融機関も公開チェーン上で国債や社債を扱う流れが加速する可能性がある。取引量が増えればOndoチェーンに預けられる資産 (TVL) が膨らみ、手数料の一部を焼却して流通量を減らす仕組みが働くため、ONDOトークンの需給にも追い風となる。

CMCサイト内 検索トレンド 狙い目：中堅銘柄

狙い目：中堅銘柄 発掘ガイド 5/16

このガイドでは、将来的に市場をリードする可能性を秘めた中堅銘柄を見つけるために、下記分析手法を採用しています。Coinmarketcap（CMC）における過去7日間の検索トレンドや訪問者数を分析し、注目を集めている中堅銘柄に関する情報を提供することです。

検索トレンド3銘柄

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	上昇率 7days
#67	 Virtuals Protocol	AI Agent	¥180,262,004,384	¥276.21	1.52倍 (FET比)	▲21.66%
#155	 ether.fi	Restaking	¥52,567,487,245	¥185.19	1.72倍 (PENDLE比)	▲110.37%
#177	 Frax (prev. FXS)	Stablecoin Protocol	¥39,049,023,398	¥431.44	8.19倍 (ENA比)	▲36.88%

狙い目：中堅銘柄チャート

以下の画像は、CMCでの7日間の価格推移のチャートとなります。基軸通貨であるBTC価格は、直近7日間で、▲5.44%となっております。





参照元：Coinmarketcap

検索トレンド中堅銘柄 注目要因(考察)



TSUDOIRリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、**とは** 価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

Virtuals Protocol : VIRTUAL

本銘柄は、直近3カ月で2度目の選出となります。

注目ポイント：Virtual、トークン発行基盤×2年ロックステーキングで需要を呼び込む

5/14 Virtualは、企業やコミュニティがTokenTable経由で自前トークンをVIRTUAL決済で発行・販売できる仕組みと、最大2年ロックのステーキング (veVIRTUAL) を同時に導入し、買う側は資金調達や報酬・議決権を手し、売る側は流通量が減るため、案件数が増えるなど

VIRTUALの買い需要が継続的に膨らんで供給が絞られ、価格が段階的に上がりやすい構造が生まれるようになった。一方、特に新規テーマは市場全体が冷えたり規制が強まると短期的な下押しも起こり得るので、投資は分散とリスク管理が鍵となる。

ether.fi : ETHFI

本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：ether.fiの買戻し×決済モデルが描く価値循環の仕組み

ステーキング利回りを原資に毎週自社トークンETHFIを市場から買い戻してステーカーへ再配分する“自社株買い+配当”型インセンティブを稼働させながら、今期中にはeETH担保の決済アプリ「ether.fi Cash」を個人・法人向けに投入してカード手数料までも買い戻し資金に回す計画を発表。利用が増えるほど流通枚数が減りトークンが希少化するネットワーク効果を狙っており、実際に5月11日の43.7万枚買戻しでは取引高が前日比18%伸びるなど需要喚起の事例も確認されたことから、Q2ローンチが滞りなく進めば年末にかけさらなる需要への期待が高まる。

Frax (旧 : FXS) : FRAX

本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：「ステーブルコイン基盤+独自L2」という二層構造

4月末～5月上旬の「North Star」アップグレードで、Frax FinanceはEVM互換L2「Fraxtal」を立ち上げ、ガバナンストークンを旧FXSからガス兼報酬トークンFRAXへ刷新。frxUSDはこのL2上で決済の基軸となり、手数料収益と逓減インフレがFRAX価値を直接底上げする。なおfrxUSD自体は2025年1月に裏付け資産をBlackRockのBUIDLファンド100%へ切り替えており、監査付き米短期債を担保にした高い透明性がこの二層モデルの信頼を後押しする。DeFiからRWAまでを一気に取り込む拡張戦略がここから本格化する見通しとなる。

大穴：新規銘柄 発掘ガイド 5/16

このガイドでは、将来有望な「大穴銘柄」を発掘するため、CMC上で時価総額ランキング200位から800位に位置する銘柄を調査し、成長性の高いものに「Goodマーク」を付与する手法と、Tier1 VCが投資する銘柄の中から直近7日間で時価総額が急上昇したものを分析する手法を採用しています。大穴銘柄における「Goodマーク」は、TOPや中堅銘柄の「Goodマーク」とは性質が異なり、時価総額が低いことから成長の幅が期待できる反面、リスクも伴うため、リスクリターン
のバランスを慎重に判断する必要があります。

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	直近7日間 のCMC推移
#244	 Space and Time	Zero Knowledge	¥27,349,894,424	¥20.16	6.56倍 (IMX比)	▼23.79%



参照元：Coinmarketcap

Space and Time : SXT

本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：メインネット稼働で始まるZKデータ革命

5/8 Microsoft支援のSpace and Timeが、パブリックかつパーミッションレスでメインネットを公開。独自の「Proof of SQL」は、オンチェーン取引と“データベースへの質問文（例：売上はいくら？）”を1秒未満で結び付け、改ざんされていない回答だけをスマートコントラクトに渡す。またAI駆動の開発者ツール群がリリースされ、dAppがリアルタイムに外部データを活用するUXを容易にする。短期的にはL2・DeFiの分析基盤として採用拡大が期待され、中期以降はAzure連携とバリデータ参加増でデータマーケットが形成される見込みとなる。

引用元：

本レポートにおけるデータおよび分析は、以下の情報源を基にしています。

- CoinMarketCap : <https://coinmarketcap.com/>
- CoinCarp : <https://www.coincarp.com/>
- Messari : <https://messari.io/>

注意事項

本レポートは、投資助言を提供するものではありません。提供される情報は、一般的な解説に限定されており、個別の投資判断に直接適用するものではありません。投資に関する最終決定とその結果について、当方は一切の責任を負いません。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。商業利用に関するお問い合わせは下記よりご連絡ください。

発行元：TSUDO I

メールアドレス：info@sigmainc.co.jp

ウェブサイト： <https://tsudo-platform.co.jp/>